

目次

1. 巻頭言
2. FIWC 九州のチャイナキャンプとは？
COLUMN1.FIWC とは？
3. ハンセン病について
4. スケジュール
COLUMN2.JIA とは？
COLUMN3.ワークキャンプとは？
4. キャンプ報告
5. 会計について
6. 保険について
7. 重要人物紹介
8. 今後の予定
9. キャンパー紹介
10. 感想

* おまけ *

北京語・広東語講座を各ページに載せています！

北京語・・・(北) 広東語・・・(広)



你好【ニーハオ】 こんにちは(北)

巻頭言

キャンプ中、村は活気であふれていた。

村人たちは常に私たちのことを温かく包んでくれた。

本当に楽しかった。

村人たちは私たちに素敵な笑顔を見せてくれた。

ところで、この笑顔の裏にある過去をどれくらいの人知っているだろうか。

素敵な笑顔、包まれるような温かさの裏には

ハンセン病により長い間偏見や差別を受け、心に傷を負った事実がある。

この事実を風化させてはならない。

私たちが彼らの声を直接聞ける最後の世代になるだろう。

私たちが村人のためにできることはそれほど多くはないかもしれない。

ただ、私たちには彼らの声を聴くことができる。

彼らの声を繋ぐことができる。

次世代に繋げることで開ける未来がある。

チャイナキャンプは世界を変える。

田中柚壽子(キャンプリーダー)

你好【ネイハウ】 こんにちは(広)

FIWC 九州のチャイナキャンプとは？

私たちは、かつてハンセン病にかかり山奥の農村に隔離された村人が住む「ハンセン病快復村」でキャンプを行います。村人はハンセン病が完治しているにもかかわらず、後遺症や憂からの差別によって依然として孤立した環境や不便な生活を強いられています。中国キャンプでは、村の家屋の一室を借りて村人と生活を共にしながら4つのことを行っています。

- ・村のインフラ整備を目的としたワークプロジェクト
- ・後遺症により掃除や洗濯などの日常生活が困難な村人の手伝いをするワーク
- ・周囲の町や村に対してハンセン病について理解してもらう啓蒙活動
- ・村人と楽しい時間を共有するためのパーティー

私たちは、現地 NGO 団体「家 JIA」の会員である中国人学生と一緒に、これらの活動を行います。

COLUMN1 : FIWC 九州とは？

FIWC 九州は、主に福岡の学生が中心になって国際協力を行う、学生 NGO 団体です。ワークキャンプを通して、貧困や差別などの社会問題に、現地の人々と共に取り組んでいます。

【国際活動】

・中国キャンプ ・フィリピンキャンプ ・ネパールキャンプ

【国内活動】

・耶馬溪キャンプ ・FP(FIWC Party)

他にも自由な発想で自由な活動を行っている柔軟さが FIWC 九州の特徴です。また、FIWC は九州の他に、関東、関西、東海に支部があり、たがいに情報交換を行いながらそれぞれが自立した活動を行っています。

ハンセン病について

私たちがチャイナキャンプで出会うのは、『ハンセン病快復者』と呼ばれる人たちです。では、そもそもハンセン病とはどんな病気なのかを説明していきたいと思います。

- ① ハンセン病とは、『らい菌』による感染症です。
- ② かつては不治の病とされていましたが、現在では確立された治療法があります。
- ③ ハンセン病患者の方は、世界中で差別を受けた歴史があります。

上の3つのポイントを詳しく説明する前に、ハンセン病に発症するとどうなるのかをお伝えします。発症するとどうなるのか。末梢神経が麻痺して、知覚が鈍くなります。例えば手に触れたものが熱いのか冷たいのか、柔らかいのかゴツゴツしているのか、そういったことがわからなくなります。痛みも感じなくなります。そのせいで、ガヤやけなどをしても気付くのが遅れ、重症化しやすくなります。ひどい人だと、手足を切らなくてはならないほどの怪我をすることがあります。また、ハンセン病の症状が進むと、身体の一部が変形したり、なくなったりすることもあります。



①ハンセン病とは、『らい菌』による感染症です。

ハンセン病は感染症と書きました。うつる病気、そう考えると怖いと思います。でも、このらい菌の感染力はとても弱く、世界中のほとんどの人が免疫を持っています。治療をしていない患者の方と密接かつ頻繁に接触した場合にのみ感染します。それも、赤ちゃんや、衛生環境・食糧状態が悪いところにいる人などの、免疫力が不完全な人にのみ感染すると言われていています。つまり、私たちが今ハンセン病患者の方と会ってもうつる可能性は限りなく低いです。また、チャイナキャンプでは、治療の終了したハンセン病快復者の方が村に住んでいるので、私たちがハンセン病にかかることはありません。

多谢【ドウチェ】 ありがとう(広)

②かつては不治の病とされていましたが、現在では確立された治療法があります。

ハンセン病は昔からある病気で、日本書紀などの古い書物にも記載されていること

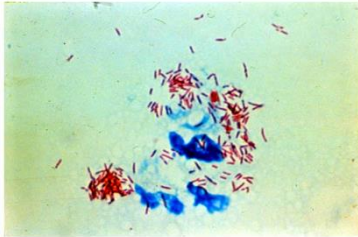


図1. らい菌（赤く棒状のもの、皮膚スミア検査、1000倍拡大）

があります。しかし、20世紀まで有効な治療法や薬は存在せず、それまでは治らない病気でした。

今では『多剤併用療法(Multi-DrugTherapy)』という

治療法が用いられています。MDTに必要な治療

薬は、現在世界中で無償で提供されています。ハン

セン病は、現在は治る病気なのです。

③ハンセン病患者は、世界中で差別を受けた歴史があります。

先ほど説明したように、ハンセン病はうつる病気であり、身体の変形が起こります。

また、かつては不治の病と言われていました。このことで、ハンセン病患者の方は世界中で差別を受けました。特に、隔離政策というのは世界中いろいろな国で行われて

いて、日本でも中国でも行われていました。ハンセン病患者を家族から切り離して、患者だけを集めたコロニーを山奥や孤島に作りました。そこから出ることは許されず、患

者は一生そこに住み続けることになりました。今では、行き来が可能になっているコロニーは少なくありませんが、知人や家族から、そして社会から隔絶された快復者の中

には、隔離政策が終わっても変えることができない方がたくさんいます。

【日本におけるハンセン病差別】

日本ではかつて、ハンセン病患者を隔離するための法律が制定されていました。ハンセン病患者が見つかり、かつて住んでいた家を消毒したり、強制的に患者を隔離し

たりといった政策を行いました。療養所に送られた入所者は名前を変えられ、断種・墮胎手術をされました。現在は、全国に13の国立ハンセン病療養所と2つの私立ハン

セン病療養所があり、合計で約1600人の入所者がいます。平均年齢は84歳で、高齢化が進んでいます。

【中国におけるハンセン病差別】

中国では、ハンセン病患者は山奥や孤島の隔離施設に收容されました。現在でも残る差別のため、多くの人々は治療後も実家に帰ることはできず、医療のないただの村

と化した施設(快復村)で暮らしています。このような快復村は現在中国全土で600ヶ

好吃【ハオチー】〔食べ物が〕美味しい(北)

所以上存在します。村人たちは、差別と偏見のため、家族、友人を含む外部との接触が極めて少ない状況です。

COLUMN2 : JIA とは？

私たちがワークキャンプを開催するにあたって、必要不可欠なのが JIA の存在です。JIA ワークキャンプコーディネーションセンターは、原田燎太郎さん(タイランさん)らにより中国広州に設立された NGO です。

JIA のワークキャンプは現在、主に中国のハンセン病快復村にて実施されています。キャンパーはワークキャンプという手段を通して、差別や偏見といった社会問題に積極的に取り組んでいます。

地活動の主体は大学生であり、各地区に、その地区の大学生が所属する地区委員会が存在します。その中でも、私たち広州地区の学生と共に活動していきます。

スケジュール

【日本でのスケジュール】

11/8(火) 第1回チャイナキャンプ説明会
@九大伊都キャンパス

11/15(火) 第2回チャイナキャンプ説明会
@びおと一ふ

11/22(火) キャンパー募集締め切り

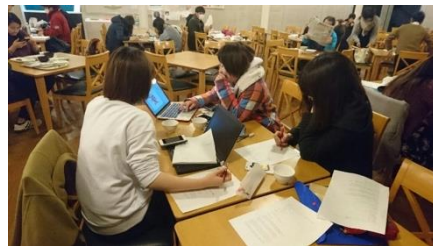
11/29(火) 第1回 MTG@びおと一ふ

12/9(金) 第2回 MTG@西南大クロスプラザ

12/13(火) 第3回 MTG@西南大クロスプラザ

12/20(火) 第4回 MTG@あんな宅(日本食作り含む)

1/13(金) 第5回 MTG@ゆずこ宅(年賀状作り含む)



好吃【ハオチー】〔食べ物が〕美味しい(広)

- 1/20(金) 第6回 MTG@西南大クロスプラザ
- 1/24(火) 第7回 MTG@西南大クロスプラザ
- 2/3(金) 書道パフォーマンスリハーサル

【中国でのスケジュール】

SUN	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT
		14	15	16	17	18
		出国	高明村 滞在			
19	20	21	22	23	24	25
高明村出 発	JIA オフィ ス滞在		日本人 MTG	合同 MTG	広州発 上海着	上海観光
26						
上海発 帰国						

【タイムスケジュール】

TIME	To Do
7:00	起床 ランニング キャンプダンス練習
7:50~	朝ご飯
8:30~	午前の活動
12:00~	昼ご飯
13:00~	お昼寝、フリータイム



好喝【ハオファー】〔飲み物が〕美味しい(北)

14:30~	午後の活動
18:00~	晩ご飯
19:00~	入浴、フリータイム
20:30~	ミーティング
22:00~	ゲームタイム
22:40~	フリータイム
24:00	就寝



キャンプ報告

COLUMN3 : ワークキャンプとは？

ワークキャンプとは、ボランティア活動のひとつで、様々な背景を持った20~30人のキャンパー(ボランティア)のが1~3週間キャンプ地に泊まり込み、寝食を共にしながらワークプロジェクトを行う活動のことを言います。ワークプロジェクトに含まれるのは、水道施設やトイレ建設、家屋などの建設や、教育、家事手伝い、啓発活動などがあります。

【高明村】

今回のキャンプ地である高明には4泊5日滞在しました。

日本人キャンパー三人とも高明に訪問するのは、去年の夏キャンプの下見と本キャンプを含め3回目の訪問でした。今回のキャンプは、JIAのキャンパー数名(コーディネーター)が事前に村の下見からキャンプの大まかなスケジュールを組み、そこに私たち日本人キャンパーがキャンプでやりたいことをプラスするという形でキャンプを行いました。

キャンプ期間:2/15-19

参加者:22名(FIWC九州3名、JIA広州委員会19名)

参加費:250元

〈キャンプスケジュール〉

加油【ジャーヨー】頑張り(北)



厉害【リーハイ】 すごい(北)



↑ 村の様子

村には JIA 以外にも中国にある大学のサークルやヨーロッパの団体が訪れたり寄付をしたりするなど、少しずつ社会へ開かれる場所になってきています。



〈村人の家の掃除や洗濯の手伝い〉

2~3人組に分かれて村人の家を回り、掃除や洗濯の手伝いの有無を聞き手伝いを必要としている村人の家で活動を行いました。手伝いをすることで村人が普段なかなかできないところの手伝いをすることができました。手伝いを通して、村人とたくさんコミュニケーションをとることができ、村人と私たちをつなぐコミュニケーションツールの1つとなりました。



〈ドアプレート作り〉

今回のキャンプでは、村人全員にドアプレートをプレゼントしました。

ドアプレートを事前に作成するのではなく、キャンプ中にキャンパーを2~3人に分け村人の家に行き、村人とコミュニケーションをとりながらドアプレートを作成しました。反省点として、予想以上に1つのドアプレートを作成するのに時間がかかってしまい一番大切な村人とのコミュニケーションよりもドアプレートを早く完成させることを優先してしまったことです。事前にできるところまでは準備をして、当日は村人と話しながらできる簡単な作業にすべきでした。



〈村人との映画鑑賞会〉

夜に村の娯楽室に集まり村人と一緒に映画鑑賞会を行いました。広東語のコメディ映画を鑑賞し、村人はもちろん言葉がわからない私たち日本人キャンパーもみんなが楽しめるイベントになりました。しかし、村人の好みとは違う映画を選んでしまったことが反省です。



〈焼きそばづくり〉

前回の夏キャンプで村人たちにハヤシライスを配ったところ好評だったため、今回も村人たちに日本食を食べて喜んでもらいたいと思い焼きそばを振る舞いました。村人の朝ご飯の時間に合わせ、朝の5時から日本人キャンパー3名とチャイニーズキャンパート3名の計6名で焼きそばを作り始めました。今回の焼きそばもたくさんの村人が「ホウセ(おいしい)!!」と言って食べてくれました。しかし数名の村人は留守だったり朝ご飯をすでに済ませていたりしたため、焼きそばを配ることができませんでした。また、朝のダンスの時間と焼きそばを配る時間

が被ってしまったため、村人とコミュニケーションをとることよりも焼きそばを配ることことを優先してしまったことが反省です。



〈ミニ運動会〉

ミニ運動会では村人と一緒に卓球やダーツ、ボーリングなどのスポーツを行いました。

村人たちが積極的にイベントに参加してくれたこともあり、とても盛り上がるイベントとなりました。このイベントを通して、村人とキャンパーの心の距離が近くなったように感じました。また、村人の笑顔をたくさん見ることができてよかったです。

反省点としては、村人たちが楽しめる種目であるかを確認するために、事前にキャンパーたちが予行練習を行うべきでした。



〈瀬粉パーティー〉

村人を村の中央広場に招待して、『瀬粉』という高明の伝統料理を一緒に食べました。

村人は瀬粉パーティーがある何日も前からこのイベントを楽しみにしてくれていて、当日も村人の笑顔あふれるパーティーになりました。瀬粉は村長をはじめとする数名の村人とキャンパーが中心となってつくってくれました。普段なかなか話すことができなかった村人ともこのパーティーが話すきっかけとなり、たくさんの村人と交流できたのでよかったです。

【ドゥイブーチー】ごめんなさい(北)



↑ 瀬粉

〈パーティー〉

パーティーでは、ダンス、歌、キャットウォークなどを行いました。

ダンスでは今回のキャンプダンスでもある『恋ダンス』をパーティーで披露するために、毎朝朝ご飯の前にキャンパーみんなでダンスの練習をしました。

日本人キャンパーからの出し物としては、『書道パフォーマンス』を行いました。

書道パフォーマンスは村人も興味津々で、パーティーが終わった後もたくさんの村人が私たちが書いた作品のところに集まってくれました。完成した作品は、村の娛樂室に貼ってくれてとても嬉しかったです。

反省点としては、当日のタイムスケジュールをすべてのキャンパーが把握できていなかったり急遽タイムスケジュールが変更となったためパーティーを円滑に進めることができませんでした。パーティーについて事前にもっとキャンパー同士での確認が必要でした。



〈旧正月〉

このイベントでは、村人とキャンパーで中国の旧正月をお祝いしました。
 音楽を流しながら村人の各家を回り、手作りのランタンと日本人キャンパーからのプレゼントとして年賀状をプレゼントしました。音楽とキャンパーの歌声で村がとても明るい雰囲気になりました。反省点としては、ランタンを作成するときに作り方の把握ができていなかったことです。事前に作り方の把握とシェアをすべきでした。



〈ミーティング〉

キャンプ中は毎日夜にキャンパー全員でミーティングを行いました。ミーティングの内容は、各係からの反省や1日を通して感じたことや面白かった話などです。ミーティングは基本中国語で行われていましたが、キャンパーの一人がミーティングの内容を中国語から英語に訳してくれました。お互い言語が違う中ミーティングを行うことは難しかったです。ミーティングを通してキャンパーとの仲を深めることができました。また、最終日はキャンパー同士でキャンプを通しての気持ちや思いのシェアを行いました。これまで経験してきたキャンプや国などのバックグラウンドが異なるキャンパーですが、5日間同じキャンプを過ごした仲間の感想を聞けてとてもいい時間になりました。



【泗安村】

泗安村では主に村人の交流と施設見学を行いました。

【クーアイ】 可愛い(北)

当初今回のキャンプでは泗安村に訪問する予定はありませんでしたが、高明キャンプ中にキャンパーに泗安村に訪問したいと相談したところ急遽訪問することが決まりました。

急遽決定したにもかかわらず 11名のチャイニーズキャンパーが村に同行してくれました。

キャンプ期間:2/20-21

参加者:14名(FIWC九州3名、JIA広州委員会11名)

参加費:18元

〈泗安村について〉

泗安村は中国広東省东莞市にあります。この村は他のハンセン病快復村と比べると

恵まれた環境であるため、2011年には他の村から40名のハンセン病快復者がやって来ました。現在村にいるハンセン病快復者の数は約80名です。将来的には他のハンセン病快復村の村人を泗安村に移す計画があるそ

うです。村にはバスケットボールコートや博物館などがあつたり、本を書いてその売り上げを他の村へ寄付している村人などがいます。泗安村は中国だけでなく様々な国の人たちが視察やボランティアできていて社会に開かれた村となっています。



↑村の様子



↑ 村人の家の様子

〈博物館見学〉

泗安村には博物館があり、村人のかつての生活の様子がわかる資料などが展示してありました。今回は英語が話せるガイドさんがいたため、詳しい解説付きで博物館を回ることができました。博物館を見学して村人の生きる知恵や歴史を学び、“村人にとっての幸せとは何か”について考えるきっかけとなりました。



〈村人との交流〉

施設見学以外の時間は村人との交流を行いました。本を書いている村人や絵を描いている村人など個性豊かな村人が泗安村にはたくさんいました。

〈泗安村の個性豊かな村人紹介〉

このおばあちゃんは『美女婆婆在泗安』という本を書いています。この本の売り上げは、自分のために使うのではなく他の村に寄付しているそうです。私たちが会いに行くと日本語で「おかけなさい。」と言ってくれるとってもかわいいおばあちゃんです。

【リー (広)



このおじいちゃんは絵がとっても上手です。おじいちゃんの家にはこれまで描いたたくさんのお作品がありました。性格も優しく、絵を描いてほしいと頼んだら快く描いてくれました。



会計について

金額は全て1人分です。小数点以下は全て切り捨て。

【日本】

航空券(往復)		40130
海外保険		10000
保険バッグ補充	【ティンブートン】	1427 理解できない(北)
ワーク準備		1681
合計		53238

【中国】

換金した日(2/20)のレートで計算。1元=16.46円

ワークキャンプ参加費 (交通費、食費含む)	288	4740
食費(広州滞在中)	232	3818
交通費	75	1234
宿泊費(上海ホテル含む)	335	5514
娯楽費	119	1958
合計		17264

【日本】+【中国】=70502円

保険について

【保険バッグについて】

2016年夏のチャイナキャンプから保険バッグを引き継いだ。ワークキャンプを行う上で、補充が必要だったので、補充しました。

【キャンプ中の怪我、病気について】

症状	対策	備考
虫さされ	かゆみ止めを塗る	日本から持って行ったかゆみ止めは効かなかった。中国製のかゆみどめを使用しました。

【総括】

キャンプを通して大きく体調を崩したメンバーはいませんでした。キャンパー3人全員が虫さされを訴えたのみでした。虫さされには、日本のかゆみどめの薬は効果がなかったため、中国人キャンパーが準備していた薬を使用しました。次回以降のキャンプでは、現地で薬を調達する必要があると思います。

今後の予定について

【2017年夏キャンプについて】

現在、2017年夏キャンプに参加してくれるキャンパーを募集中です！
キャンプ地や日程など詳細は決定次第メールにてお知らせします。

【チャイナキャンプ説明会】

夏のキャンプに向けて説明会を行います。

興味がある方はもちろん、ちょっと顔を出していただけるだけでありがたいです！

4/26 合同説明会 @びおと一ぷ

5/10 16:40～ @九大センターゾーン

5/11 17:00～ @西南クロスプラザ

キャンパー紹介

【田中柚壽子】

ジェネラルリーダー。英語ペラッペラ。村人とチャイニーズキャンパーを惚れさせる。完璧かと思われる彼女ですが、彼女は毎回キャンプで事件を起こします。今回は財布をなくしました。まあ、そんなところも含めて自慢のリーダーです。(by ちか)



今回のキャンプを引っ張ってくれたゆずこ。本当にありがとう！言語化が上手で私たちの気持ちを的確に言い当ててくれる。MTGとかただけど、小悪魔気質は変わらず、今回も中国人キャンパーにモテモテ！羨ましい～。(by あんな)



【吉田知可】

高明村の有村架純。人を惹きつける力の持ち主。キュートな笑顔で村人たちの人気者！ちかがいる所はいつも笑顔があふれていました😊ノンバーバルコミュニケーションの達人で、言語の壁を少しも感じさせない程村人と自然に交流していました。少しおっちょこちょいな所もあり、ちかのおかげで笑いの絶えないキャンプになりました。(by ゆずこ)



本当にチャイナキャンプが大好きな子！村人のこともキャンパーのことも大好きなんだよね！そして、ちかは人とのつながりをとっても大事にする！そういう姿勢は本当に尊敬してるよ！今回はパクチーの克服ができましたか？キャンプ楽しませてくれてありがとう～(by あんな)

【鈴木杏奈】

キャンパー1のしっかり者。本当に様々な面であんなぴがいてくれて助かりました。ダンスの天才という異名を持つだけあり、ダンスが上手で、キャンプダンスは彼女がいなかったら成り立たなかったと思います。芸術センスも抜群で、この報告書、ムービー、アルバム全てにチャイナキャンプの良さを凝縮してくれました。(by ゆずこ)



あんなといれば怖いものなし！と言っても過言ではないだろう。海外経験豊富で困ったらあんなに聞けば何でも解決。朝はどんな目覚まし時計よりも正確に起こしてくれます。しっかり者ですが、キャンプ中一番乙女でした。(by ちか)

感想

今回は2回目のチャイナキャンプ参加になった。今回のキャンプでは去年の夏とはまた違うことを感じたり様々なことに気付いたりすることができた。

1つ目の村は去年の夏に行った村と同じ村。去年の夏、私が中国に行く意味を明確に見いだせなかったこともあったので、私は、村人たちが私たち日本人キャンパーのことを覚えてくれているか不安だった。しかし、村に入るなり村人たちは温かく迎えてくれ、更に何人かの村人は私の名前を覚えてくれていて、「柚寿子(やおさおじー)！」と広東語で私の名前を何度も呼んでくれた。それを聞いて単純に覚えてくれていたことに驚き感動したのと同時に、去年の夏私たちが村に行ったことが村人の心に残っていたということを知り、とても嬉しく思った。今回は2回目ということもあり、前回よりも更に村人との心の距離が縮まり、自分の祖父母と接しているような感覚を持った。もちろんまたキャンプをしたいという思いもあるが、それよりも〇〇おじいちゃん、〇〇おばあちゃんにもう一度会いに来たいという思いが強くなった。



また、JIAのメンバーたちは優しさや思いやりが溢れていて家族のような存在に思えた。

その感情とともに私自身が少なからず「偏見」や「差別」という感情を持っていたことに改めて気付かされた。報道等で中国のことが悪く言われることが多くあり、「中国」に対してネガティブなイメージが全くないとは言い切れなかった。確かに文化や国民性の違いはあるかもしれないが、その国の中の誰か、その

コミュニティの中の誰かではなく、結局は人と人との繋がりであり「あなた」と「私」の関係が何よりも大切であるということ去年よりも更に深く実感することができた。

「ハンセン病回復村での支援」と聞くと暗いイメージを抱く人もいるかもしれない。チャイナキャンプは成果が目に見えにくいかもしれない。確かに決して明るい面だけではない。目に見える成果物も少ない。しかし、キャンプには素敵な笑顔と筆舌に尽くしがたい温かさに包まれていた。チャイナキャンプに参加して初めて見える世界がある。

このたった2週間で感じた多くのことをできるだけ多くの人と共有したい。願わくは多くの人に経験してもらいたい。何かの魅力をこれほどまでに必死に誰かに伝えたいと思えたことは初めてだと思う。それほどまでにチャイナキャンプの全てが大好きだ。

【タイホクサン】 大学生(北)

伝えたいことはたくさんあるが、とにかく言えることは今回のキャンプは"めちゃくちゃ楽しかった"ということだ。チャイナキャンプの"楽しい"には、ワクワクしたりする楽しさや、考えみんなと語り合い考えを深める楽しさなど、沢山の"楽しい"がある。

今回のキャンプは私にとって2度目のチャイナキャンプだった。もちろん前回のキャンプも楽しかったし多くの事を学ぶことができた。しかし、今回は前回をはるかに上回る楽しさだった。

今回のキャンプが楽しかった理由として、村人との心の距離感が近かったことと言葉の面で前回とは違ったからだと思う。

私は今回のキャンプ地の高明を訪問するのは3回目だった。村に着き、村人に挨拶回りに行った時に、会った瞬間「知可！」と名前を呼んでくれる村人、「覚えてるよ！」と言ってくれる村人、前回日本語教室で教えた日本語を覚えていてくれた村人が沢山いてくれたことに本当に感動した。前回訪問した期間はたった4日で、前回会った時から半年も経っていたのにも関わらず村人は覚えてくれていた。

前は村人とどう接したらいいのか、自分が村人のためにできることは何か、などいろいろ考え過ぎてしまいなかなか思ったよりも積極的に村人と交流できなかった。その後悔もあり、2度目のチャイナキャンプに参加しようと決意した。

今回は、前回のキャンプのおかげで村人とのコミュニケーションの取り方がわかり積極的に村人と交流できた。村人との接する時間が増えるごとに、村人のことがさらに大好きになったし、村人も心を開いてくれているような気がして自分と村人の心の距離感が近く感じた。

次に、前回と違うと感じた『言葉』についてだ。

前回と今回のチャイナキャンプを通して、言葉以外のコミュニケーションの大切さを学んだ。今回も、村人と一対一で話すときは私は日本語と簡単な広東語、村人は広東語でお互い何と言っているのかわからなかった。しかし、村人と同じタイミングで笑ったとき心が繋がっているような気がした。言葉でのコミュニケーションでは感じる事ができない心の繋がりが。私は村人の隣に座り、お茶やお菓子を一緒に食べたり、お互い言葉はわからないがおしゃべりをして、お互い一緒のタイミングで笑う。そんな時間が大好きだ。

前回とは違うと感じたところは、今回のキャンプは前回のキャンプよりもチャイニーズキャンパーが多かったため、チャイニーズキャンパーが村人の話を英語に訳してく

れる機会が多かった。そのため、村人が何を私たちに話してくれているのかわかることができた。

私は、村人がしてくれた話の中で特に印象に残った話がある。

私の大好きな村人の1人に何三婆というお婆ちゃんがいる。何三婆は、私たちが家に行くとお茶とお菓子をだしてくれて沢山の話をしてくれる笑顔がとっても素敵な可愛いお婆ちゃんだ。

何三婆のみせてくれたフォトアルバムの中に、集合写真があった。何三婆は、その写真を指して先月の自分の誕生日の話をしてくれた。話をきくと、何三婆は4人姉妹で結婚しており2人の子供がいたがハンセン病にかかってしまったため家族と引き離され高明に隔離されてしまった。しかし先月村に来て初めて家族が村に来てくれ誕生日を祝ってくれたという話だった。村へ来て何十年も家族と会えなかった何三婆は、誕生日にもらったプレゼントや家族の話をとっても嬉しそうに話してくれた。

この話を聞き、中国のハンセン病回復村でも徐々に一度離れ離れになった家族との関係を取り戻したり、差別が薄れていっているという嬉しさがあった。しかしそれ以上に、ここまでくするのに何十年も時間かかってしまったことに対するショックがあった。

言葉が分かることで、いつも笑顔で元気な村人の違う一面を知ることができ、前回よりも深いところまで知ることができた。



今回のキャンプを通して、前回からの疑問でもあった「村人のために私ができること」の自分なりの答えがみつかった。村人から貰う元気、優しさ、パワーは私がいくら頑張っても勝てないぐらい村人からもらい、返せないが、私にできることは、村人から聞いた話、村人と交流して感じたこと、ハンセン病にかかったことで受けた差別などをいろんな人に伝えることだと思った。そのために私はこれからいろんな人にことごとく自分が発信者となり伝え、中国以外にも日本のハンセン病療養所を訪問してお話を聞き、差別があったという歴史を風化させないようにしたい。

まだまだ伝えたいことはたくさんあるが、私はチャイナキャンプに参加できて本当によかった。

いつも元気とパワーを与えてくれる村人たち。

いつも優しく、ときには一緒に語り合ったりふざけあったり、同世代の学生としていつも良い刺激になる大好きな JIA メンバー。

自分もこんな人になりたい！と思わせてくれるめちゃくちゃカッコいいタイランさんとまさこさん。

そんな素敵な人たちにとの出会いに感謝したい。

そして、チャイナキャンプに出会えて本当によかった。

次は広東語と中国語と英語を勉強して、また村人や JIA メンバー、タイランさんまさこさんに会いに行こうと思う。

吉田知可

まずはじめに、今回のキャンプに関わってくださった皆様に感謝の気持ちを伝えたいと思います。チャイナキャンプが途切れてから、色々な方が動いてくださり、私たちを支えてくださったおかげでキャンプを全力で楽しむことができました。本当にありがとうございました。

今回の春キャンプで私が一番辛かったことは、村人や JIA のメンバーとお別れをしなければならなかったことです。私は人生でこんなに「離れたくない」と思ったことはありません。村を離れるとき、空港でお見送りをしてもらったとき、とっても寂しかったです。感謝という言葉だけでは言い表せない感情が溢れ出していました。彼らからもらったものは温かく、大きかったです。また会いたいと思える人がたくさんできました。うまくまとめることはできませんが、これは私の人生において何にも変えられない財産になったのでは？と思います。

そして、今回のキャンプでもう一つ感じたことがあります。それは「優しさの循環」です。私は、小さい頃から母に「人に優しくしなさい。必ず自分に帰ってくるから」と言われ続けてきました。やっとこのキャンプを通してこの言葉が腑に落ちたような気がします。村人や JIA のメンバーは私たち日本人キャンパーに優しくしてくれました。心に染みるくらい優しくしてくれました。私はその優しさを感じて、自分も相手に対して「優しくしたい」と強く思うようになりました。これが母の言っていたことか、と思いました。優しくされた分だけ、自分も返したい。2倍、3倍にして返したい。そう思うことができました。



極論ですが、この優しさの循環が世界中に広がれば差別や戦争は無くなるのでは？と思っています。世界と個人は規模が明らかに違いますが、世界は個人の集合体です。みんながみんなこのことに気づき行動して欲しいです。偉そうに言っている自分もまだまだできていません。

だけど、こうやって考え、気付くことができたのは本当に良かったと思っています。気付くことで、一つでも自分や自分の周りが変わっていけばと思っています。

こんなことを考え、語ることのできるチャイナキャンプ。まだまだ魅力は沢山あります。もっと色々な人にチャイナキャンプを経験してもらいたいです。

鈴木杏奈